VOL.04

Live with a smile

リウマチ治療の最前線を看護師さんに聞いちゃう！

患者さんにやさしい「ペン型注射」って…なに？

リウマチだからって怖がらないで…

川崎医科大学附属病院
登録リウマチケア看護師
外来看護副師長
西村 瑞穂さん

登録リウマチ看護師として、忙しい毎日を送る西村さん。長年の経験で培ってきた豊富な専門知識と技術を生かしながら、看護はもとより、若手看護師の育成にも積極的に取り組んでいる。

金光病院
登録リウマチケア看護師
浅野 薫さん

中学生のとき、病気を患い、病院通いを経験したのが医療に興味を持つきっかけとなった浅野さん。もともと鴨方出身だけに同じエリアの金光をはじめ地元を愛する意識も高い。「病院でご近所の知り合いが、カオちゃん、カオちゃんとお前を呼んでくれるんです」とうれしそうな笑顔で話してくれた。

検査は想像以上にカンタン！！

「リウマチは、さまざまな疾病の中でも、近年、治療法が最も進歩した。特にバイオ製剤は有効性が極めて高く、速効性もあります」と話すリウマチ・膠原病科の守田部長。リウマチの専門医として患者さんの状況や生活スタイルに応じた治療を提案している。

自己注射のメリットは、頻繁に通院する必要がなくなり、自分の生活スタイルをきちんと守れること。特に仕事をしている人や子育てや家事で忙しい人など、時間の制約を受けたくない人にはうれしい治療法。「生活パターンを変えずに治療できる！」と喜ぶ患者さんも多いのだとか。

適切な治療法があるから怖がらなくても大丈夫！

「リウマチはお年寄りだけの病気じゃない！」「これまで3回にわたって、リウマチ専門医や登録リウマチケア看護師の話を聞いたけど、ＬＬＩＯ世代（20歳から30歳）の発症率の高さ、特に患者の約9割が女性！という事実に驚いた読者も多いはず。でも安心なのは、バイオ製剤の存在。今回は治療の最前線で活躍する金光病院の浅野さんと川崎医科大学附属病院の西村さんが、患者にやさしい「自己注射」のメリットをレクチャーしてくれました。

西村　さっき病院へ入るときに見たんですが、目の前の桜並木がすばらしいですね。

浅野　そうなんです。患者さんはもちろん、地元の方も開花の時期を心待ちにしています。金光病院は浅口市を中心とする地域に根ざした医療機関ですが、土地柄か高齢の患者さんが多いんです。リウマチに関しては、平均年齢が70歳くらい。昭和の頃から通院されている方もいらっしゃいますよ。

西村　そうなんですか。川崎医科大学附属病院のリウマチ患者さんの平均年齢は50歳くらいです。もちろん20歳代や30歳代の方も多いですね。その8割が女性です。

浅野　当院の特徴としては「リウマチ科」がひとつの科として設置されています。ですから患者さんもはっきり「リウマチ科で治療したい」という意志を持った方が多いですね。

ペン型の注射剤がリウマチ治療のイメージを変えた？

西村　昨年登場した「ペン型の注射剤」は、当院でもたくさんの患者さんが使っています。注射針がペンの中に隠れていて、針を見ずに投与できるんですよね。「針が怖い」という患者さんからは本当に喜ばれています。投与したあとも針刺し防止機能がついているので感染症などのリスクも軽減できます。

浅野　「リウマチは注射で治療できる！」とお子さんやお孫さんに聞いて来られる高齢の患者さんもいらっしゃいます。何年、いや何十年にもわたって治療を続けている患者さんは、自分の治療法についてよく理解されていますから、きちんとバイオ製剤のメリットと副作用を説明すれば、納得して受け入れてくれますね。

西村　最初は自己注射に抵抗があった高齢の患者さんも「旦試すと「リウマチの痛みに比べたら、注射くらいなんてことない」みたいな感じ…（笑）。

浅野　当院の患者さんも初めは「素人が注射してもいいの？」という反応でしたが、ペン型が登場してからは思った以上に簡単にできるので自己注射に対するイメージが変わってきましたね。

患者さんにも看護師にも優しいのがうれしい。

西村　ペン型のメリットですが…実は私たち看護師にもあるんですよ。

浅野　たとえば、どんなことですか？

西村　患者さんのトレーニング時間が少なくてすむため、看護師は注射指導以外のことに目を向けることができます。

浅野　それに付け加えて言えば、患者さん本人だけではなく、家族の方からも「扱いやすくなった！」と喜ばれていますね。

患者さんの笑顔を見てこれまでのリウマチへのイメージが変わった。

浅野　私は看護師になって20年になりますが、あらためて学生の頃をふり返ると、当時はリウマチには「暗い」「痛い」といったマイナスイメージしかありませんでした。でも今は、きちんと治療すれば痛みをコントロールできる時代です。金光病院では、たくさんのリウマチ患者さんと接していますが、皆さん笑顔で明るいですね。バイオ製剤、自己注射といった治療法が病気のイメージを変えていっているんだと実感しています。

西村　仕事や育児でがんばっている患者さんが少しでも痛みから解放されて、本来の生活を楽しめるようサポートしていきたいですね。そのためにもＬＬＩＯ読者の方には、手が握りにくい、開きにくいといった症状がある場合は、まず早期受診をおすすめします。特に出産後は発症リスクが高まるので注意してほしいですね。

「患者さんの笑顔のために…」。その思いを胸に今日もリウマチ治療に取り組むおふたり。笑顔に包まれた楽しいひとときでした。

今回、ご協力いただいた病院は…

川崎医科大学附属病院
086-462-1111（代表）

リウマチや膠原病などの診断・治療を専門とする守田部長のチームには、7人の医師が所属している。最新の治療法や市民公開講座の案内、リウマチ相談外来（毎週火曜）など、リウマチ・膠原病に関する情報はホームページに掲載している。

今回、ご協力いただいた病院は…

医療法人社団同仁会 金光病院
0865-42-3211

1957年4月浅口市金光町に開院。現在、内科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、肛門科（肛門外科）、眼科、耳鼻咽喉科の診療科を設置。浅口市をはじめ玉島、笠岡、福山など、広いエリアから患者が訪れている。地域の拠点病院として地元に根ざした親切で温かい医療を提供している。春には病院周辺の桜並木が美しく開花。多くのファンに愛されている。

院長：難波 義夫
岡山県 浅口市 金光町占見新田740